

【報告】

第15回 日本禁煙科学会 学術総会 in 静岡

【開催概要】

◆テーマ

フレフレ
2020日本 ～新型タバコ時代の禁煙先進国を目指して～

◆開催日・開催地等

開催日：2020年(令和2年)12月19日(土)-20日(日)

開催地：静岡県

会 場：静岡県立大学 草薙キャンパス

◆会長

森本 達也(静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野 教授)

◆主催

日本禁煙科学会、静岡県立大学

◆主たるプログラム

会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、分科会、一般演題

【URL】

◆第15回 日本禁煙科学会 学術総会のページ

https://www.jascs.jp/scientific_conference/conf_index.php#area_15

◆第15回 日本禁煙科学会 学術総会 プログラム・抄録集

「禁煙科学」Vol. 14(13), 2020/12

※「禁煙科学2020」のページからダウンロードして下さい。

https://www.jascs.jp/kinen_kagaku/kinen_kagaku_2020.html

【学術総会会長挨拶】



第15回日本禁煙科学会学術総会

会長 森本 達也

(静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野 教授)

第15回日本禁煙科学会学術総会を2020年12月19日(土)・20日(日)の2日間にわたり、静岡県立大学草薙キャンパスにて開催させて頂くことになりました。会期は、2020年5月23日(土)24日(日)を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症を考慮し、延期しております。新型コロナウイルス感染症対策を最大限行い、静岡県立大学草薙キャンパスでオンサイトでも開催しますが、会場に来られない方のために、Zoomを用いてリアルタイムでも参加出来るよう、ハイブリット形式で行います。

本学術総会のテーマは「2020 フレフレ日本 ～新型タバコ時代の禁煙推進国を目指して～」とさせていただきます。皆さまもご存じの通り、2020年は東京オリンピック開催が予定されていました。国際オリンピック委員会(IOC)は1988年から禁煙の方針を採択し、2010年には世界保健機関(WHO)と「たばこのないオリンピックを目指す合意文書」への調印を行うなど、早くからスポーツにおける禁煙に取り組んできました。これを受け、我が国でも、健康増進法が改正されて2020年4月に全面施行され、禁煙活動を活性化するための環境が整っております。一方で、最近若者を中心に新型タバコの使用が広まり、問題になっております。本総会では、過去最大に高まっている禁煙への関心を背景に、新型タバコ対策についても取りあげて行きたいと思っております。

これからしばらくは、新型コロナウイルスとの共存という「新しい生活様式」を実践し、感染予防行動を続ける必要があります。この「新しい生活様式」のもと、禁煙活動をどのように進めていくかを考える学術総会にしていきたいと思っております。第15回日本禁煙科学会学術総会を魅力ある学術集会にするために、特別講演をはじめとして、教育講演、シンポジウム、分科会など魅力あるプログラムを企画しました。一般演題は口頭発表のみとし、Zoomを使った遠隔発表形式で行います。エントリーされた演題の中から優秀賞を選出いたしますので、多くの方のエントリーを期待しております。

この時期の静岡は、気候が穏やかで山や海の幸が満載です。きっと壮大な富士山が皆さまをお迎えしてくれると思います。静岡おでんだけではなく、ディープな静岡で皆様のお腹と頭、さらには心を満たす2日間にできると確信しています。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

【学 会 賞】



◇受 賞 者：安次嶺 馨 氏

◇受賞理由：

小児科医の立場から「赤ちゃんから始める生活習慣病の予防」を提唱し、永年 にわたる胎児と赤ちゃん子どもを喫煙から守る活動を通じて日本の禁煙の推進 に大きく貢献した。

【研修・職歴】

- 1967年 鳥取大学医学部卒業
- 1969年～71年 沖縄県立中部病院小児科研修医
- 1971年～74年 シカゴ市マイケル・リース病院小児科レジデント
- 1975年 沖縄県立中部病院小児科医長
- 1976年 米国小児科専門医
- 1987年 ハワイ大学医学部小児科臨床教授
- 1999年 琉球大学医学部小児科臨床教授
- 2003年 沖縄県立中部病院院長
- 2004年 沖縄県立那覇病院院長
- 2006年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター院長
- 2008年 同 定年退職
- 2011年 沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団 デイレクター
- 2020年 同 退職

【報告】

第15回日本禁煙科学学会学術総会

教育・小児科分科会の案内と報告

教育・小児科分科会リーダー

牟田広美（いいつかこども診療所）

【案 内】

2020年初めからはじまった新型コロナウイルス感染症の流行は、子どもたちの生活にも多大な影響を与えています。長期間の休園・休校による生活の乱れや友人関係の変化、新しい生活様式の導入などの急激な環境の変化への戸惑いやストレス、罹患への不安などにより、メンタルの不調を訴える子どもたちが増加しています。

タバコとの関連で考えると、家庭で過ごす時間が長くなっているため、家庭内では受動喫煙が増えている子どもたちも少なくないと思われます。

一方、改正健康増進法の全面施行に伴い、飲食店などは原則屋内禁煙化されており、家庭外での受動喫煙は減っている可能性があります。埼玉県熊谷市で2007年から継続的に実施されてきた小学生に対する受動喫煙検診は、今年度は実施できていないとのことで、その状況は明らかではありません。また、昨年までは実施できていた喫煙防止教育も、授業時間の確保や感染予防のための外部者の入校制限などのため、実施できていないとの声も伺っています。それらに加えて、喫煙をはじめってしまった子どもたちへの禁煙支援も、感染予防のための受診抑制の影響が心配されます。

このようなWithコロナ時代に、どのように子どもたちをタバコから守るかを、子どもたちに関わるすべての人たちの様々な視点から討論していきたいと考えています。

皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

10:00-10:10 開催のあいさつ 野田隆

10:10-10:25 「子どもたちの健康リスクを可視化する受動喫煙検診」 黒沢和夫

10:25-10:40 「コロナ禍での安全な受動喫煙防止教育（プリント学習）」 鈴木修一

10:45-11:15 グループディスカッション

グループ1 Withコロナでの受動喫煙への対策

グループ2 Withコロナでの喫煙防止教育

グループ3 Withコロナでの子どもたちへの禁煙支援

11:15-11:30 ディスカッションの発表、まとめ

【開催報告】

2020年12月20日に開催された第15回日本禁煙科学会学術集会での教育・小児科分科会の内容を報告させていただきます。

参加者は会場+Web参加を合わせて40名以上となり、想定以上の盛況な会になりました。演者の先生方およびご参加いただいた方にお礼申し上げます。

開始に先立ち、分科会長の野田隆先生から、開会の挨拶および導入として受動喫煙の基礎知識およびその測定法や評価についてレクチャーしていただきました。

続いて、黒沢和夫先生から「子どもたちの健康リスクを可視化する受動喫煙検診」というタイトルで、埼玉県熊谷市で実施されている小学校4年生を対象とした尿中コチニン測定による受動喫煙検診についてご講演いただきました。内容は、受動喫煙検診が行われるようになった経緯、検診の年間スケジュールや方法、これまでの結果などについてでした。経年的に受診率が向上し、また全く受動喫煙を受けていない児の割合が増加している点が素晴らしいと感じました。

併せて行われている生活習慣病検診やそのアンケート結果との関連も調査されており、その中にはスマホ使用時間が長い児ほど受動喫煙を受けているという興味深い結果もありました。一方、高度に受動喫煙を受けている児の割合はあまり変わっていないとのことで、大きな課題と思われました。

鈴木修一先生から「コロナ禍での安全な受動喫煙防止教育（プリント学習）」というタイトルで、冒頭に千葉市の一部地区で行われている受動喫煙検診の結果と、コロナ禍でも実施しやすいプリント用いた喫煙防止教育についてご講演いただきました。

千葉市の検診は昨年度からの実施でしたが、受診率や結果は初期の熊谷市と同程度ようです。プリント学習については、思いついたきっかけ、学習内容、メリットなどについてお話しいただきました。コロナ禍であっても実施しやすい喫煙防止教育の1つとして、参加者に興味を持っていただいたようです。プリントを持ち帰ってもらい家庭でも話題にしてもらうことは、通常の授業でも応用可能です。

質疑応答では「受動喫煙検診後のフォローアップはどうなっていますか？」という質問があり、熊谷市では「高度に受動喫煙がある児には受診を促すような文書を出している」、千葉市では「禁煙治療に対する補助を出している」とのことでした。

最後に、総合討論を以下の3つのテーマをもとに行いました。

1. Withコロナでの受動喫煙への対策

現時点でWithコロナの状況下での受動喫煙の実態を調査した報告はないため不明です。しかしながら、自宅にいる時間が長くなっていると思われるため、受動喫煙が増えているのではないかと危惧されています。今年度はまだ実施されていない熊谷市の検診結果が待望されます。

2. Withコロナでの喫煙防止教育

今年度は、外部者の入校禁止などの影響から実施できた先生は少なかったようです。実施された先生からは、第2波が少し収まってから徐々に実施できるようになり、講演はできてもグループディスカッションはできないなどの制約があっ

たそうです。

牟田からは、喫煙防止教育は実施できたものの、人数を減らして2回に分けたり、またこれまでは実施できていたストーリーを使ってCOPDの疑似体験をする実習ができなかった先生のお話などをさせていただきました。

野田隆先生からは、今年度は実施できなかったが、昨年実施した時にスライドを渡していたので、それをもとに養護教諭が実施してくれたとのことでした。

高橋裕子先生からは、奈良県の一部の地域はリモートで地域の有線放送を使ってレクチャーを送信したとのことでした。感染状況などを見ながら、地域の事情にあった方法を模索することが重要であると考えられました。

3. Withコロナでの子どもたちへの禁煙支援

高橋裕子先生から報告していただきました。

今年度は、3例の相談があったものの直接会っての相談ができないもどかしさを感じられたそうです。いずれも学校からの相談で、2例は高校生でしたので禁煙外来受診を勧め、もう1例は中学生だったので薬局でニコチンパッチ購入をしてもらうことにしたそうです。また、今年度は例年と比べて相談件数が少なくなっており、その理由として、保護者も自宅にいる時間が長いため子どもたちが吸いにくくなっているのでは、と考えられるとのことでした。また、Withコロナでは、もともと喫煙をしている子どもたちが抱えている色々な問題点がさらに大きくなっているようであり、子どもたちとともに保護者を支援していく体制作りの必要性を訴えられました。

まとめ

しばらくは対面による支援などは困難な状況が続くと考えられますが、各人ができることを考えながら一步一步進めていただければ幸いです。